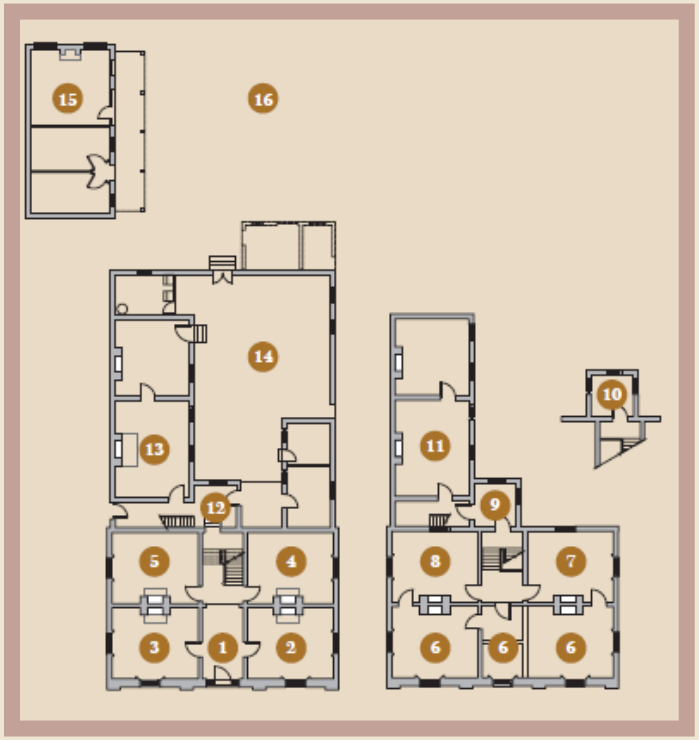
館内マップ



1.玄関
2.ダイニング
3.客間
4.朝食ルーム
5.来客用寝室
6.展示室
7.ヒューオンパインの寝室
8.育児室
9.ドレスルーム
10.バルコニー
11.使用人の宿舎
12.裏玄関
13.キッチン
14.中庭
15.馬車置き場
16.畑

ナリナとは・・・

ナリナはキャプテン・アンドリューヘイグによって1840年に建設されました。ヘイグはもともとインドのコルカタを拠点にし、広州を通して中国と貿易できるようイギリスの東インド会社から認定を受けた商人でした。イギリスは中国の古代文明を象徴したような陶器やシルク、お茶、漆のようなものを欲しがっていた一方、中国が必要としていたのは少量の西洋産品でした。イギリスはこのアンバランスな貿易を埋め合わせるため、中国にアヘンを不正輸出し始めました。また、中国は銀も欲しがったため、ヘイグは広州での貿易レートをより良くしようとチリのバルパライソで中国用の貨物を売り、スペインの銀貨へと変えました。

ヘイグがホバートへ航行してきたのは偶然バッテリーポイントが区分けで売り出されていた時期であったため、ヘイグは1824年にHampden roadとSullivan's cove shore-lineの間の長くて狭い土地を買いました。この土地の端にナリナを建て、反対側にはサラマンカプレイスに面するように倉庫を建てました。ヘイグ輸入した食品や建築に必要な品物をはこの倉庫で売っていました。現在この倉庫はレストランとして使われています。

ヘイグは1835年にナリナの建築を始めましたが決して裕福な商人ではなかったため、完成するまでには5年もかかりました。

そして完成してから2年が経った1842年4月、彼は他の財産とともにナリナを手放さなければなりませんでした。

ナリナは後に実業家や弁護士、政治家、銀行員の家になり、20世紀前半には下宿屋として使われていました。また、1946年にはタスマニア政府により病院として使用され、1955年にはバッテリーポイントの住民達によってミュージアムになりました。

ナリナで展示されているものは19世紀ホバートで実際に使われていたものです。

建築家エドワードはナリナを古典的なスタイルにデザインしたこと、家の前方部が古代ギリシャ聖堂の影響を受けていることから、この時代の男性の教育が古代ローマの言語であるラテン語や、西洋文明の発祥地だと考えられているギリシアのギリシア語のような古代言語に基づいた"古典的な教育"を受けていたことが伺えます。

ナリナはレンガ造りの家で、前の部分はレンガよりも上質な材料の石でできています。この石はキャプテンヘイグの倉庫のすぐ裏にある現在のサラマンカプレイスから採石されたと言われています。

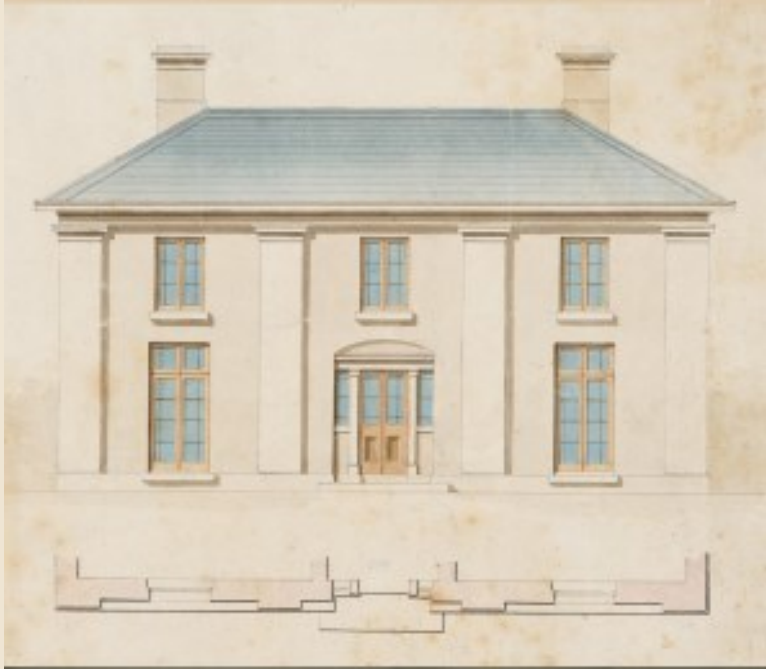
インディアンモンゴル風に設計された石造りの噴水は1950年代に他の家から運ばれ、庭の中央部に置かれました。庭には馬車が向きを変えられるよう車道が造られました。

開館時間：火曜日～土曜日　10時～4時30分
　　日曜日　　12時～4時30分
　　※12時半から1時の間はお昼休憩のため閉館
休館日：グッドフライデー、アンザックデイ、クリスマス
　　ボクシングデイ、7月と8月の平日
　　※月曜日は団体のみ
入館料：大人　10ドル
　　小人　4ドル
　　コンセッション　8ドル

DISCOVER NARRYNA

日本語ガイドマップ

THE MERCHANT'S HOUSE



1.玄関

玄関には石材に似せたクラシカルな壁紙を使っています。この時代は建物の外観でその家の財力を判断することが多かったため、玄関にも外観と同様豪華な装飾を用いています。壁にはHaughton Forrestによって描かれたニューワーフとサラマンカプレイスの絵が飾ってあります。もう一つの大きな絵はヘイグがロンドンとタスマニアの間を指揮した船の絵で、Sir John Rae Reidによって描いかれたものです。

2.ダイニングルーム

同じビジネスをしている仲間へのもてなしは、東欧でも西欧でも大切にされていました。ダイニングルームでは夕食をとる以外にも、食後に男性が仕事の話をする目的で使われていたことから、男性の部屋と考えられていました。そのためダイニングルームは男性らしいデザインになっています。また壁の家族や先祖の肖像画は客に家族の社会的な地位を見せるために飾られています。

3.客間(ドローウィングルーム)

男性達が食後にダイニングルームでビジネスの話をしている間、女性達がこの客間で過ごしていたためこの部屋には白や金、赤などの明るめの色が用いられ、女性らしさが出されています。16世紀から２０世紀前半、西洋では家具やインテリアを塗装することでより高級感を演出していました。ドアや窓のシャッターにはバーズアイメイプルという、絵の額にも用いられている木材風の塗装が施されています。また、暖炉を囲っている木にもメイプルに見えるような塗装がされています。この客間に置かれていたものは高価なものばかりでした。スタンドの上にあるティーボックスはヘイグの時代に使われていたものです。当時お茶は高級品であったため、ヘイグ夫人は使用人として働いていた囚人に盗まれないよう鍵をかけて保管していました。

4.朝食ルーム

ナリーナの朝食ルームは朝日が入るよう東側に作られました。この部屋は朝食を食べるだけでなく、リビングとしても使われていました。

5.来客用寝室

１階にあるこの部屋は来客用の寝室として使われていました。この部屋にある四柱式ベッドとても高い地位を象徴しています。このベッドには四方を囲むことができるカーテンがついており、これによって大きい部屋の中に小さな空間を作り出し暖かさを保つことができたため、ホバートの寒い冬には重宝されていました。

6.展示室

ナリーナは1946年から病院として使われていたため、壁を2つ取り除いてベッドを並べるために大きな部屋を作りました。19世紀にはキッチンの近くの部屋が寝室として使われていました。また、小さいほうの展示室は育児室として使われていました。この展示室ではナリーナのコレクションを展示し、展示は定期的に変わります。

7.ヒューオンパインの寝室

この寝室は北と東の２つの方向から日が入るように作られています。この部屋の多くの家具はヒューオンパインというタスマニア産の木からできています。ヒューオンパインはゴンドワナ大陸がオーストラリアや南アメリカ、インドから分離するより前からあるとても古い種類の木で、油分が多い木材のためボートにも使われています。

8.育児室

ナリーナにはいくつかの大家族が住んでいたため、２階にある2つのドアでつながっている部屋は育児室として使われていました。キャプテンヘイグとヘイグ夫人の間には男の子７人と女の子１人の子供がいましたが、ヘイグ夫人は使用人として働いている囚人に子供を預けることはせず、1837年と1840年に住み込みの保育士を募集しました。

9.ドレッシングルーム

表階段に続いてあるのは更衣室です。使用人の部屋から続くもうひとつの扉は使用人たちが顔を洗ったりお風呂に使うお湯を運ぶために使われていました。

10.バルコニー

バルコニーは表階段を上がりきったところにあり、もともとはオープンバルコニーでスリバンの入り江を眺めることができましたが、1905年にバスルームに造り変えられました。

11.使用人の宿舎

使用人の部屋はキッチンの上にある天井の低い部屋でした。使用人と料理人たちのバスルームは現在は公開されていません。キャプテンヘイグとヘイグ夫人にはフィーメールファクトリーから来た9人の女性が仕えていたことが明らかになっています。

12.裏玄関

ナリーナの使用人たちが使っていたキッチン等は本館より少し低く造られています。　棟を分けることによって「家族」と「使用人（囚人）」を明確に区別していたことが伺えます。キッチン付近の細い階段はキッチンの上にある使用人の部屋へとつながっています。使用人が表階段を使うことは許されていませんでした。

13.キッチン

本館から続く少し低い建物の１階はすべてキッチンとして使われていました。火事のリスクを減らすとともに、料理の匂いや熱が本館にこもらないようにするためだと言われています。鉄のストーブは石炭を燃やすために用いられました。隣の部屋は現在事務所として使われていますが、かつては食器洗い場として使用され、大きな鍋やフライパンが洗われていました。

14.中庭

石造りが特徴的なナリーナの中庭は北から日差しが入りとてもいい作業場でした。裏口の反対側にある小さな小屋は食料品が置かれていた倉庫と洗濯室です。

15.馬車置き場

南側のドアを通して馬の餌を吊り下げていました。北側のロフトは男性の使用人が寝泊りする宿舎として使われていました。

16.庭

1842年3月にナリーナが売りに出されたとき、庭には食事用と市場で売る用の野菜を育てる畑がありました。

Translation and Layout:

Chiharu Masutani—International student—Drysdale